

2020年度

シラバス

第1学年（第4回生）

学校法人 医療創生大学

葵会仙台看護専門学校

2020年度 第1学年（4回生）：教育課程・学科進捗表

科目名	内容	単位数	時間数	1学年		2学年		3学年			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	科学的思考	論理学	1	30		30					
		情報科学	1	30		30					
		看護物理学	1	15	15						
	人間と生活・社会の理解	音楽	1	30	30						
		倫理学	1	30					30		
		心理学	1	30	30						
		教育学	1	30			30				
		社会学	1	30	30						
		医療英語 I	1	15	15						
		医療英語 II	1	30	30						
		運動と健康	1	30	30						
		人間関係論	1	30	30						
		ホスピタリティ論	1	15	15						
		小計		13	345	195	90	30		30	
		専門基礎分野	人体の構造と機能	人体構造・機能学 I	細胞の構造と機能 組織 骨格・筋系の構造と機能	1	30	30			
人体構造・機能学 II	呼吸器系 循環器系 泌尿器系			1	30	30					
人体構造・機能学 III	消化器系 血液 内分泌系			1	30	30					
人体構造・機能学 IV	神経系 免疫系 生殖器系			1	30	30	30				
疾病の成り立ちと回復の促進	生化学			1	30	30					
	微生物			1	30	30					
	栄養学			1	30	30	30				
	病態治療学 I		概論	1	30	30					
	病態治療学 II		呼吸器 循環器 腎臓・泌尿器	1	30	30					
	病態治療学 III		消化器 内分泌・代謝	1	30	30					
	病態治療学 IV		運動器 脳・神経 神経内科	1	30	30					
	病態治療学 V		皮膚疾患 耳鼻咽喉疾患 眼科疾患 菌・口腔疾患 血液・造血疾患 女性生殖器	1	30	30					
	病態治療学 VI		外科総論 外科各論 放射線治療 臨床検査	1	30	30		30			
	薬理学			1	30	30					
リハビリテーション論			1	15		15					
健康支援と社会保障制度	総合医療論			1	15	15					
	公衆衛生学			1	15		15				
	社会保障			1	15		15				
	社会福祉			1	15		15				
	看護関連法令			1	15				15		
	経済と看護			1	15				15		
小計		21	525	165	240	90		30			
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論		1	30	30					
		基礎看護学援助論 I	コミュニケーション 安全な医療環境	1	30	30					
		基礎看護学援助論 II	ヘルスケアアセスメント	1	30	15	15				
		基礎看護学援助論 III	活動と休息 安全・安楽な療養環境	1	30	15	15				
		基礎看護学援助論 IV	清潔・衣生活	1	30	30					
		基礎看護学援助論 V	食事 排泄	1	30	30					
		基礎看護学援助論 VI	看護過程	1	30	30					
		基礎看護学援助論 VII	呼吸・循環を整える技術 救命救急処置技術	1	15	15					
		基礎看護学援助論 VIII	薬物療法と看護 診察・検査に伴う看護	1	30			30			
		基礎看護学援助論 IX	健康状態の経過に基づく看護 主要症状別看護 治療処置を受ける対象者への看護 創傷管理技術	1	30		30				
	小計		10	285	120	135	30				
	基礎看護学実習 I		1	45	45						
	基礎看護学実習 II		2	90	90						
	小計		3	135	45	90					
小計		13	420	165	225	30					
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30				
		成人看護学援助論 I	系統別健康問題のある患者への看護援助	1	30			30			
		成人看護学援助論 II	系統別健康問題のある患者への看護援助 慢性期患者の看護過程	1	30			30			
		成人看護学援助論 III	手術療法を受ける患者の看護 急性機能不全患者の看護	1	30			30			
		成人看護学援助論 IV	手術を受ける患者の看護	1	30				30		
		成人看護学援助論 V	慢性期・周手術期の看護技術 がん看護	1	30				30		
	小計		6	180		30	90	60			
	老年看護学	老年看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30				
		老年看護学援助論 I	老年期のヘルスアセスメント 日常生活援助	1	30			30			
		老年看護学援助論 II	老年期の健康障害時の看護	1	30			30			
		老年看護学援助論 III	看護過程の展開	1	15				15		
	小計		4	105		30	60	15			
	小児看護学	小児看護学概論	看護の対象と目的	1	30			30			
		小児看護学援助論 I	病気や障害を持つ子どもの看護 必要な技術	1	30			30			
		小児看護学援助論 II	病態治療学 主な疾患とその子どもの看護	1	30				30		
		小児看護学援助論 III	看護過程の展開	1	15				15		
	小計		4	105			60	45			
	母性看護学	母性看護学概論	看護の対象と目的	1	30			30			
		母性看護学援助論 I	病態治療学 妊娠・分娩・産褥期の看護 新生児の看護	1	30			30			
		母性看護学援助論 II	妊娠・分娩・産褥期の異常 新生児にみられやすい病態・疾患・看護	1	30				30		
		母性看護学援助論 III	褥瘡の看護過程	1	15				15		
	小計		4	105			60	45			
	精神看護学	精神看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30				
		精神看護学援助論 I	精神疾患の診断・治療およびケアの方法	1	30			30			
		精神看護学援助論 II	精神看護とサポート	1	30			30			
		精神看護学援助論 III	看護過程の展開	1	15				15		
	小計		4	105		30	60	15			
臨地実習	成人看護学実習 I		3	135				135			
	成人看護学実習 II		3	135					135		
	老年看護学実習 I	(老人保健施設実習 30 時間含む)	2	90				90			
	老年看護学実習 II		2	90					90		
	小児看護学実習	(保育園実習 30 時間含む)	2	90					90		
	母性看護学実習		2	90					90		
	精神看護学実習		2	90					90		
小計		16	720				225	495			
小計		13	810	0	90	330	405	495	0		
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	看護の対象と目的 関連する制度	1	30			30			
		在宅看護援助論 I	在宅療養を支える看護技術 (日常生活)	1	15			15			
		在宅看護援助論 II	在宅療養を支える看護技術 (医療)	1	30				30		
		在宅看護援助論 III	在宅援助技術 (看護過程)	1	30				30		
	小計		4	105			45	60	0		
	看護実践の統合	看護研究の基礎		1	30			30			
		看護管理と医療安全		1	30				15	15	
		災害・国際看護学		1	15				15		
		臨床実践の統合		1	30				15	15	
		小計		4	105			30	45	30	
臨地実習	在宅看護論実習		2	90					90		
	統合実習		2	90					90		
小計		4	180					90	90		
小計						75	60	135	120		
総計				74	1965	480	555	555	240	105	30
						1035		795		135	
				23	1035	45	90		225	585	90
						135		225		675	
				97	3000	1170		1020		810	

2020年度 第1学年（4回生）：1年次教育課程・学科進度表

科目名	内容	単位数	時間数	1学年		
				前期	後期	
基礎分野	論理学		1	30		30
	情報科学		1	30		30
	看護物理学		1	15	15	
	音楽		1	30	30	
	心理学		1	30	30	
	社会学		1	30	30	
	医療英語Ⅰ		1	15	15	
	医療英語Ⅱ		1	30		30
	運動と健康		1	30	30	
	人間関係論	家族論含む	1	30	30	
	ホスピタリティ論		1	15	15	
小計		11	285	195	90	
専門基礎分野	人体構造・機能学Ⅰ	細胞の構造と機能 組織 骨格・筋系の構造と機能	1	30	30	
	人体構造・機能学Ⅱ	呼吸器系 循環器系 泌尿器系	1	30	30	
	人体構造・機能学Ⅲ	消化器系 血液 内分泌系	1	30	30	
	人体構造・機能学Ⅳ	神経系 免疫系 生殖器系	1	30		30
	生化学		1	30	30	
	微生物		1	30	30	
	栄養学		1	30		30
	病態治療学Ⅰ	概論	1	30		30
	病態治療学Ⅱ	呼吸器 循環器 腎臓・泌尿器	1	30		30
	病態治療学Ⅲ	消化器 内分泌・代謝	1	30		30
	病態治療学Ⅳ	運動器 脳・神経 神経内科	1	30		30
	病態治療学Ⅴ	皮膚疾患 耳鼻咽喉疾患 眼科疾患 歯・口腔疾患 血液・造血疾患 女性生殖器	1	30		30
	薬理学		1	30		30
	総合医療論		1	15	15	
小計		14	405	165	240	
専門分野Ⅰ	看護学概論		1	30	30	
	基礎看護学援助論Ⅰ	コミュニケーション 安全な医療環境	1	30	30	
	基礎看護学援助論Ⅱ	ヘルスケアアセスメント	1	30	15	15
	基礎看護学援助論Ⅲ	活動と休息 安全・安楽な療養環境	1	30	15	15
	基礎看護学援助論Ⅳ	清潔・衣生活	1	30	30	
	基礎看護学援助論Ⅴ	食事 排泄	1	30		30
	基礎看護学援助論Ⅵ	看護過程	1	30		30
	基礎看護学援助論Ⅶ	呼吸・循環を整える技術 救命救急処置技術	1	15		15
	基礎看護学援助論Ⅸ	健康状態の経過に基づく看護 主要症状別看護 治療処置を受ける対象者への看護 創傷管理技術	1	30		30
	小計		9	255	120	135
	基礎看護学実習Ⅰ		1	45	45	
	基礎看護学実習Ⅱ		2	90		90
	小計		3	135	45	90
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30
	小計		1	30		30
	老年看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30
	小計		1	30		30
	精神看護学概論	看護の対象と目的	1	30		30
小計		1	30		30	
総計			40	1170	525	645
					1170	

領域	基礎分野		科目	論理学		担当	菅原 宏道		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	宿題	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
到達目標		医療に従事するうえで必要な論理的思考の技術を身に付ける。また、論理的な文章を書くための基礎を身に付ける。							
授業概要		妥当な論証としての論理学と、限られた情報やデータをもとにした推測的思考とを学び、両者をおのおの、あるいは両者を組み合わせて、適切な場面に適用する技術を学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		講義を通じて、日常的な考え方と、医療の場での思考（あるいは論理的な文章の書き方）との違いを念頭に置いてもらえればと思います。毎回の授業前に教科書を読んでおいてください。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	ガイダンス		イントロダクション、論理学の対象				講義		
2			日常的思考と論理的思考				講義		
3	命題		命題、主張、根拠				講義		
4			日本語の記号化と論理結合子				講義		
5	推論規則		推論規則（1）肯定式、否定式、二重否定				講義		
6			推論規則（2）仮言三段論法、選言三段論法、 ディレンマ				講義		
7			論理学における二種類の正しさ				講義		
8			特称（単称）命題と全称命題、矛盾				講義		
9	演繹と帰納		演繹と帰納（枚举、類推、アブダクション）				講義		
10			仮説演繹法とハンソンのアブダクション				講義		
11			普遍と特殊、理論と事実				講義		
12	説明		説明、予測、応用の基礎				講義		
13			説明、予測、応用の応用				講義		
14	論述		論述文（小論文）の基礎とセオリー				講義		
15	単位認定試験と解説								
教科書		『論理の基礎と活用』、内田詔夫（著）、北樹出版							
参考文献		『入門！論理学』、野矢茂樹（著）、中央公論新社							
備考		ほぼ毎回、自作のレジユメを配付します。必要に応じて資料も配付します。							

領域	基礎分野		科目	情報科学		担当	萩原 潤	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
到達目標		情報の整理、情報の利用について正しく理解し、インフォームドコンセントや情報開示などの患者の自己決定の支援や患者の尊厳を守るという立場から、医療の進歩と同時に情報科学の進歩も医療を支えている事を理解する。情報を取扱う者としてのモラルについて学ぶ。						
授業概要		情報の特徴を理解し、その収集や分析、伝達に関する基本的な性質や特徴を理解する。その上で、医療における情報の管理や扱いに対する知識を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		コンピュータの利用に関する解説も行うので、事前にコンピュータに関する知識を自己学習してください。						
回数	授業内容						授業方法	
1	情報の定義と特徴						講義 演習	
2	情報化社会						講義 演習	
3	保健医療と情報						講義 演習	
4	看護と情報						講義 演習	
5	医療における情報システム						講義 演習	
6	情報倫理と医療倫理						講義 演習	
7	患者の権利と情報						講義 演習	
8	個人情報の保護						講義 演習	
9	コンピュータリテラシーとセキュリティ						講義 演習	
10	既存の情報の収集方法						講義 演習	
11	調査によるデータ収集方法						講義 演習	
12	Excel による統計解析						講義 演習	
13	文字情報の整理						講義 演習	
14	情報の発表とコミュニケーション						講義 演習	
15	単位認定試験と解説							
教科書								
参考文献								
備考								

領域	基礎分野		科目	看護物理学		担当	佐藤 学	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
到達目標		1 身体及び身体ケアに関する物理的根拠を理解する 2 検査・治療・処置に関する物理的根拠を理解する						
授業概要		医療・看護行為には、物理学と関連しているものが多い。単に「方法」としてのケアを学ぶのではなく、物理的思考を身に付けることによって、科学的な視点で看護を考え、原理・原則や根拠を明確にしていく。						
学習者への期待 (準備学習含む)								
回数	授業内容						授業方法	
1	1 有効数字と基本単位 2 ベクトルとスカラー、力のつりあい 合成・分解						講義	
2	3 力の合成の応用と練習、摩擦						講義	
3	4 てこの原理 (1) モーメントのつりあい (2) 応用とボディメカニクス						講義	
4	5 物の運動、ニュートンの法則と重力						講義	
5	6 遠心力 (1) 作用と反作用						講義	
6	7 脊柱にかかる力・浮力						講義	
7	8 仕事とエネルギー (1) ベルヌーイの法則・血圧						講義	
8	単位認定試験と解説							
教科書		ベッドサイドを科学する・看護に生かす物理学 学習研究社						
参考文献								
備考								

領域	基礎分野		科目	音楽		担当	小林 真知子		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	授業態度	30%	レポート	30%
						実技試験	40%		
担当者名		担当講義に関する実務経験							
到達目標		1 童謡や唱歌等を通して、歌が生まれた生活や時代背景等を知り、歌詞の表現法を学ぶ。 2 音楽を通して、楽しさや美しさ、心身の開放感を体験して深く音楽の意義を学ぶ。							
授業概要		1 童謡、唱歌を歌い 作詞・作曲者の生い立ち等の解説と歌唱指導。 2 コーラスの指導をし、その成果を発表。							
学習者への期待 (含む準備学習)		1 さまざまな分野の歌を体験し、さらに好きになってくれること。 2 命を支える医療現場において、音楽が心の潤いや励ましとなること。							
回数	授業内容						授業方法		
1	ふるさとの四季（故郷、春の小川、朧月夜、鯉のぼり、茶摘、夏は来ぬ、われは海の子） 歌唱指導と解説						講義 演習		
2	ふるさとの四季（村祭、紅葉、冬景色、雪、）歌唱指導と解説						講義 演習		
3	ふるさとの四季と早春賦の歌唱指導と解説								
4	ふるさとの四季と花の歌唱指導と解説						講義 演習		
5	ふるさとの四季と浜辺の歌の歌唱指導と解説								
6	ふるさとの四季とこの道の歌唱指導と解説						講義 演習		
7	ふるさとの四季と赤とんぼの歌唱指導と解説								
8	ふるさとの四季と小さい秋みつけたの歌唱指導と解説						講義 演習		
9	ふるさとの四季と三つのわらべうた（ずいずいづっころばし、通りゃんせ、あんたがたど こさ）歌唱指導と解説								
10	ふるさとの四季とさくら貝のうたの歌唱指導と解説 学生から選曲した曲						講義 演習		
11	ふるさとの四季と花の街の歌唱指導と解説 学生から選曲した曲								
12	ふるさとの四季と夏の思い出の歌唱指導と解説 学生から選曲した曲						講義 演習		
13	ふるさとの四季とこの広い野原いっぱいと歌唱指導と解説 学生から選曲した曲								
14	ふるさとの四季とシューベルト・ブラームスの子守唄						講義 演習		
15	単位認定試験と解説 クラス毎に「ふるさとの四季」を発表。レポート提出。								
教科書		<ul style="list-style-type: none"> メヂカルフレンド社 改定音楽 カワイ出版 女声合唱のための唱歌メドレー「ふるさとの四季」源田俊一郎 編曲 							
参考文献		9回目授業はプリント配付カワイ出版 コーラスをはじめた人のための二部合唱曲集1の中から「三つのわらべうた」							
備考									

領域	基礎分野		科目	心理学		担当	渡邊 兼行			
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	80%	授業参加 (提出物含む)	20%	
担当者名		担当講義に関する実務経験								
到達目標		人間の心理や行動の基礎にある原理を理解し、自己を良く理解する方法を学ぶ。 患者や家族の心理を理解するために、こころの動き、行動、性格、情緒など、人間の心理や行動の基礎にある原理を学ぶ。								
授業概要		心の科学としての心理学を概観する。心理学はとかく誤解されやすい学問であるが、そのような誤解を解き、心と行動への科学的アプローチがどのようなものか、それによってどのような事実が明らかになってきたのかについて、講義と演習を通して学ぶ。								
学習者への期待 (含む準備学習)		<ul style="list-style-type: none"> ・しっかりと予習復習すること。 ・授業で積極的に発言すること。 ・授業で行う作業には積極的に取り組むこと。 								
回数	項目	授業内容					授業方法			
1	心理学とは	心理学について。その考え、歴史、方法について学ぶ。					一斉講義			
2	感覚・知覚	感覚と知覚について、体験的にそのしくみを知る。					一斉講義 演習			
3	感情	感情について、その心理学的理論を学ぶ。					一斉講義			
4	適応	自己・欲求・意志といった点から、適応の心理を学ぶ。					一斉講義			
5	学習	新たな行動を身に付けるしくみである学習について学ぶ。					一斉講義			
6	記憶	記憶の情報処理のしくみについて学ぶ。					一斉講義 演習			
7	認知	認識・表象・思考・言語といった認知のしくみについて学ぶ。					一斉講義 演習			
8	知能	知能について、その測定と理論について学ぶ。					一斉講義 演習			
9	性格	性格について、その測定と理論について学ぶ。					一斉講義 演習			
10	発達	心の発達について、そのさまざまな理論について学ぶ。					一斉講義			
11	集団と社会①	集団について、特に他者との相互作用について学ぶ。					一斉講義 演習			
12	集団と社会②	社会の知覚と社会の影響について学ぶ。					一斉講義 演習			
13	カウンセリング	心の問題に対する心理学的介入の方法と理解を学ぶ。					一斉講義 演習			
14	患者と心理	医療の現場における心理学の役割について考える。					一斉講義 演習			
15	単位認定試験と解説									
教科書		系統看護講座 基礎分野 心理学 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	基礎分野		科目	社会学		担当	磯崎 匡		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	60%	レポート	20%
						出席	20%		
担当者名		担当講義に関する実務経験							
到達目標		社会的存在としての人間を理解する。具体的には自己を取り巻く地域・社会・文化がどのように変化し、また、我々の生活にいかなる影響を及ぼしているかを理解する。							
授業概要		本講義の目的は、さまざまな社会問題を題材として人間と社会の関係性について考察することである。講義ではまず、「組織」「民族」「家族」「ジェンダー」「地域社会」をキーワードとして我々が暮らす社会の特徴と問題を明らかにする。次に医療に限定せず広く保健医療を対象として社会的に分析する。最後に「職業集団」による専門職支配の場としての病院が抱える課題について考える。							
学習者への期待 (準備学習含む)		<ul style="list-style-type: none"> ・可能ならば講義中グループワークを行ってもらおう。 ・毎回講義終了時にレポート提出する。 ・テキストの該当箇所を指示するので予め読んでおくこと。 							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	人間と社会		社会的存在としての人間				講義		
2	組織		集団・組織・ネットワーク、グローバリゼーション ノーマライゼーション				講義		
3	民族（1）		ナショナリズム				講義		
4	民族（2）		日本の文化、価値観				講義		
5	民族（3）		諸外国の民族、価値観				講義		
6	家族（1）		家族概念と家族形態				講義		
7	家族（2）		現代家族の諸問題				講義		
8	ジェンダー		セックスとジェンダー、性別役割				講義		
9	地域社会（1）		コミュニティと地域				講義		
10	地域社会（2）		ソーシャルサポートと社会関係資本				講義		
11	地域社会（3）		ヘルスプロモーションにおける地域				講義		
12	保健医療の社会学（1）		保健医療の社会学の射程				講義		
13	保健医療の社会学（2）		病と生きる				講義		
14	職業集団		働く個から見た病院、患者の側から見た病院				講義		
15	単位認定試験・まとめ								
教科書		系統看護学講座 基礎分野 「社会学」 医学書院							
参考文献		講義の際適宜紹介する							
備考		初回の講義の初めに授業のガイダンスを行うので必ず出席すること。							

領域	基礎分野		科目	医療英語 I		担当	佐藤 悦子		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義 演習	単位認定試験	60%	出席率	20%
						小テスト等	20%		
担当者名		担当講義に関する実務経験							
到達目標		コミュニケーションに必要な基礎的な文法項目を知り、医療・看護場面における日常英会話の基礎を理解する。英会話を通じて外国の人々に積極的に関わろうとする態度を身に付ける。							
授業概要		高校までの基本的な文法を確認しながら専門分野での単語や表現等が身につくよう、実践的な学習の場とする。							
学習者への期待 (含む準備学習)		辞書を有効に活用し、しっかりと復習や暗記をすることによって定着に努めてほしい。							
回数	授業内容							授業方法	
1	授業の説明・勉強法・英会話の基本							講義 演習	
2	日常会話の表現							講義 演習	
3	病院内の案内							講義 演習	
4	人体の部位の表現							講義 演習	
5	症状の表現							講義 演習	
6	場面別会話－外来							講義 演習	
7	場面別会話－病棟							講義 演習	
8	単位認定試験と解説								
教科書		クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院							
参考文献		必要に応じて資料を配付							
備考		学生の入学時の能力やその後の理解力により変更の可能性あり。							

領域	基礎分野		科目	医療英語Ⅱ		担当	佐藤 悦子		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	60%	出席率	20%
						小テスト	20%		
担当者名		担当講義に関する実務経験							
到達目標		基礎的な医療・看護用語を使って臨床場面で簡単な会話をを行い、コミュニケーション能力を高める。 英語で書かれた医療看護に関する文献を読解する基礎を学ぶ。							
授業概要		前期の学習の定着をはかりながら、さらにさまざまな場面に対応できるよう実践的な学習を行う。							
学習者への期待 (含む準備学習)		前期同様、持続的な学習により、レベルアップに努めてほしい。							
回数	授業内容						授業方法		
1	授業の説明・前期学習の確認						講義 演習		
2	患者理解－生活習慣、ニーズ、話題等						講義 演習		
3	病名						講義 演習		
4	検査 1						講義 演習		
5	検査 2						講義 演習		
6	手術 1						講義 演習		
7	手術 2						講義 演習		
8	与薬						講義 演習		
9	食事、栄養						講義 演習		
10	カルテ、処方箋 1						講義 演習		
11	カルテ、処方箋 2						講義 演習		
12	海外文献の読解 1						講義 演習		
13	海外文献の読解 2						講義 演習		
14	まとめと試験準備						講義 演習		
15	単位認定試験と解説								
教科書		クリスティーンのレベルアップ英会話 医学書院							
参考文献		必要に応じて資料を配付							
備考		前期の進捗状況により、変更の可能性あり。							

領域	基礎分野		科目	運動と健康		担当	星 由華里	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		50%
						出席率及び課題提出		50%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
到達目標		健康の保持増進や疾病の予防を図り、生きがいのある生活を送るための運動・スポーツの可能性を知り運動・スポーツを理解する。 心身の健康を保持するための具体的な運動を体験し体力の向上を目指す。						
授業概要		<ul style="list-style-type: none"> 事例を知り理論を学びさまざまな実践を通して、体を動かすことの重要性・必要性を理解する。 他者とのコミュニケーションを通し相互理解、協力しながら自らの健康・体力・維持力を身に付ける。 						
学習者への期待 (準備学習含む)		<ul style="list-style-type: none"> 筆記用具、水分補給用飲料持参 用具の片付け、清掃を協力して行う事 運動着 運動靴着用、長髪の場合は束ねる事 課題は決められた期日までに提出する事 						
回数	授業内容						授業方法	
1	ヘルスプロモーションについて 体力測定① 行動変容ステージ調査①						講義 演習	
2	アイスブレイク運動 ダイナミック・スタティック ストレッチ①						講義 演習	
3	運動の重要性、必要性を知る(事例①) ダイナミック・スタティック②						講義 演習	
4	良い立位姿勢 ウォーキング①(主観的運動強度・目標心拍数・インターバル法)						講義 演習	
5	熱中症予防について ウォーキング②応用(ノルディックウォーキング)						講義 演習	
6	生活習慣を振り返る エアロビクスダンス リラクゼーション						講義 演習	
7	トレーニング原理・原則 レジスタンス運動 スタビライゼーション						講義 演習	
8	ロコモティブシンドローム① 運動器退行性疾患(事例②) 運動療法						講義 演習	
9	ロコモティブシンドローム② ロコモ度調べ 介護予防運動の紹介と実践						講義 演習	
10	認知・運動機能向上運動 (スクエアステップ・ラダートレーニング・コグニサイズ)						講義 演習	
11	レクリエーション ゲーム、レクリエーションダンス						講義 演習	
12	身体ケア・機能向上体験 (簡単なヨガ バランスボール利用 タオルエクササイズ)						講義 演習	
13	体力測定② 行動変容ステージ調査②						試験対策	
14	体力測定・行動変容ステージの事前事後変化報告						試験対策	
15	単位認定試験と解説(簡単な実技動作及び少数の用語理解問題)						試験 講義	
教科書		随時資料配付						
参考文献		健康体力づくり事業団 健康運動指導士・実践指導者テキスト他参考						
備考		国家試験に過去出題された問題を共通する内容を紹介し学ぶ。						

領域	基礎分野		科目	人間関係論 (家族論含む)		担当	木島 上		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	50%	授業態度	50%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
木島 上		ホテルで勤務し、接客業をした経験を有す							
到達目標		人間関係に関する基礎知識を持ち、人間関係を信頼関係、援助的・対話的關係にするため人間存在について探究し、人間尊重の理念や他者理解と自己理解について理解を深める。							
授業概要		看護実践の一つの基盤である人間関係の質が看護の質にどのように影響するかについて概説する。人間観を育て、関係性を築き、その関係性を日常生活や看護実践に役立てるように、具体的事例や文献、そして自己の体験の振り返りなどを通して授業を進める。							
学習者への期待 (含む準備学習)		人間関係は日常的に展開されているが、その人間関係を学問としてとらえ、知的に体験的に学ぶことを期待する。学習に主体的に取り組み、一人の人間として人間関係の在り方を考えてほしい。自分の考えを明確にし、自分の心の声を聴くための小レポートを課す。またグループワーク(GW)などでは予習が必要な単元を提示する。							
回数	項目		授業内容			授業方法			
1	ガイダンス		人間関係論の進め方のガイダンス 自己開示を助ける関係とは			授業 話し合い			
2	人間存在		人間論 人間論を育てるとは			授業 GW			
3	関係の生成		コミュニケーション論			授業			
4	自己理解		自己理解と人間関係			授業 自己対話			
5	他者理解		他者理解と人間関係 健康な高齢者を理解し、その理解を伝える			発表 援助			
6	援助的関係		援助役割と援助的関係 病気の人を理解し援助関係を築くには			授業 GW			
7	カウンセリング		カウンセリングとは、「聞く」と「聴く」の違い			授業 演習			
8	カウンセリング		看護カウンセリング「自己一致」「肯定的配慮」「共感」と看護の関係			授業			
9	関係性の記録		人間関係をプロセスレコードに記録し、理解の視点から分析を試みる			授業 記録訓練			
10	対話的關係		「われーそれ」と「われーなんじ」の関係性			授業 文献学習			
11	体験学習		プロセスレコードの講評 体験学習としての実習を考える			GW			
12	家族と人間関係		家族の人間関係とその変化			授業			
13	家族と人間関係		看護場面での看護師と家族との人間関係			授業 GW			
14	家族と人間関係		家族援助としての看護における人間関係の在り方			事例によるGW			
15	単位認定試験と解説								
教科書									
参考文献									
備考									

領域	基礎分野		科目	ホスピタリティ論		講師名	木島 上		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義 演習	単位認定試験	70%	平常点	10%
						課題レポート	20%	出席点 積極性	
担当者名		担当講義に関する実務経験							
木島 上		ホテルで勤務し、接客業をした経験を有す							
到達目標		ホスピタリティと対人コミュニケーションにおけるホップ・ステップ・ジャンプを学び、保健・医療・福祉において人間関係が大きく影響することを理解する。人はそれぞれ価値観を有する存在であることを理解し、コミュニケーション技術の習得や自己の人間形成が人間関係に不可欠であることを学ぶ。							
授業概要		「他者に誠実な関心を持ち、在りのまま受け容れて尊重し、相手のハピネスの向上を支援する」という姿勢が磨かれ、実践に結びつけられるよう、講義と演習を行う。患者・家族に対してのみならず、共に働く人々にもホスピタリティを豊かに発揮してもらおうべく、情報やヒントを提供する。							
学習者への期待 (含む準備学習)		科目名はホスピタリティ論であるが、論を学び語るだけでは意味がない。学んだことや気付いたことを日々の生活において実践するという心がまえで受講していただきたい。							
回数	単元		授業内容				授業方法		
1	社会と人間関係		①ホスピタリティとは				講義		
			②対人コミュニケーションにおける Hop, Step, Jump				講義		
2			③Hop：相手の心に警戒心が起きない第一印象を！				講義 演習		
			④Step：相手の尊厳を大切にす心遣い、言葉使いを！				講義 演習		
3			⑤Jump：相手のアタマ・ココロ・カラダに ハピネスのタネを！				講義 演習		
			⑥保健医療の現場におけるクレーム対応				講義		
4	看護における人間関係		①保健医療チームの特性				講義		
5			②保健医療チームにおけるチームワークの意義				講義		
			③チームワークを促進する要因とチームリーダーシップ				講義		
6			④チームワークを阻害する要因とハラスメント				講義		
			⑤専門職の連携・協働に向けて				講義		
⑥チームと個人のモチベーション向上策				講義					
7	療養生活と人間関係		①患者・家族と保健医療従事者				講義		
			②療養を支える人間関係及び地域連携				講義		
8	単位認定試験と解説								
教科書		系統看護講座 基礎分野 人間関係論 医学書院							
参考文献		オリジナルプリント							
備考									

領域	専門基礎分野	科目	人体構造・機能学Ⅰ	担当	山本 由似(16) 尾形 雅君(14)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
到達目標	人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。人体の構造と機能Ⅰではまず人体をつくる基礎である細胞の構造と機能を理解し、その上で構造と機能からみた人体を把握する。さらに骨格・筋系の構造と機能を理解する。					
授業概要	人体の基礎である細胞、細胞分裂。核の構造と機能、組織等について学び、人体の区分、人体部位の名称、方向用語、体液とホメオスタシス等について熟知する。さらに人体各部の骨格がどのように構成され、それぞれがどのように連関を持つか講義する。ついで骨に起始停止する筋について運動機能を関連付けて説明する。					
学習者への期待 (準備学習含む)	人体の構造と機能Ⅰでは、慣れない解剖学用語や生理学用語がたくさん出てきます。慣れるためには、予習はともかく、その日の復習をかかさないと大事です。それを心がけてください。					
回数	単元	授業内容				授業方法
1	1. 解剖生理学総論	1 人体の階層性、人体の器官系				講義/尾形
2		2 人体をつくる細胞の構造				講義/山本
3		3 細胞構成の物質とエネルギー生成				
4		4 細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体				
5		5 人体を構成する組織				
6		6 構造からみた人体；人体区分、人体部位の名称、人体の腔所、方向用語				
7		7 機能からみた人体；体液、内部環境及びホメオスタシス				
8		8 まとめ				
9	2. 運動器	1 骨格・筋系総論				講義/尾形
10		2 体幹の骨格				
11		3 上肢及び下肢の骨格				
12		4 体幹の筋とその働き				
13		5 上肢の筋とその働き				
14		6 下肢の筋とその働き				
15	単位認定試験・まとめ					
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院					
参考文献						
備考						

領域	専門基礎分野	科目	人体構造・機能学Ⅱ	担当	齋藤 淑子					
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%	
担当者名		担当講義に関する実務経験								
齋藤 淑子		血液・循環器専門とする医師。病院勤務経験を有する。								
到達目標		解剖学と生理学を連携しながら、人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。人体構造と機能Ⅱでは、呼吸器系、循環器系、泌尿器科の構造と機能について理解する。								
授業概要		人体を構成する器官系、すなわち体内の流通システムとしての、呼吸器系・循環器系・泌尿器系などの構造と機能について学ぶ。								
学習者への期待 (準備学習含む)		人間の体はさまざまな細胞や臓器からできており、それらが協力して働いている。全体を大きく把握することからはじめて、細部に至る方が理解しやすいと思われる。								
回数	単元	授業内容					授業方法			
1	1. 呼吸器系	1 外呼吸と内呼吸、上気道					講義			
2		2 下気道、肺					講義			
3		3 換気、外呼吸					講義			
4		4 血液中のガス運搬、呼吸調節					講義			
5							講義			
6	2. 循環器系	1 血管系総論					講義			
7		2 心臓					講義			
8		3 血管と循環					講義			
9		4 心臓、血管の成長と老化					講義			
10		5 リンパ系					講義			
11							講義			
12	3. 泌尿器系	1 泌尿器系の構成と構造					講義			
13		2 泌尿器系の構造とその機能 3 尿の生成と体液の調整 4 下部尿経路					講義			
14		単元のまとめ					講義			
15		単位認定試験								
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院								
参考文献										
備考										

領域	専門基礎分野	科目	人体構造・機能学Ⅲ	担当	香川 慶輝(12) 尾形 雅君(6) 山本 由似(12)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
到達目標	解剖学と生理学を連携しながら、人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。消化器系、血液、内分泌系の構造と機能を理解する。					
授業概要	消化器系の各器官とその働きについて学び、次に血液を構成する血球と血漿について講義する。さらにホルモン分泌を行なう内分泌系についても理解を深めてゆく。					
学習者への期待 (準備学習含む)	解剖用語や生理学的用語が次々と沢山出て、授業のペースが早くなって来ます。人体構造・機能Ⅰの時以上に復習に熱心に取り組んで欲しいです。講義が終わったら、まずもって教科書を繰り返し読んで、講義した内容をしっかりと把握することが肝要です。					
回数	単元	授業内容				授業方法・担当
1	1.消化器系	1 総論				講義・香川
2		2 口腔、咽頭、食道の構造と機能				
3		3 胃、小腸、大腸の構造と機能				
4		4 肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能				
5		5 腹膜				
6		まとめ				
7	2.血液	1 血液の組成と機能				講義・尾形
8		2 血球の構成				
9		3 血漿、血液凝固、血液型				
10	3.内分泌	1 総論、自律神経での調整				講義・山本
11		2 内分泌での調整 (1) 視床下部、下垂体				
12		3 内分泌での調整 (2) 松果体、甲状腺、副甲状腺(上皮小体)				
13		4 内分泌での調整(3) 副腎、性腺				
14		まとめ				
15	単位認定試験・まとめ					
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院					
参考文献						
備考						

領域	専門基礎分野	科目	人体構造・機能学Ⅳ	担当	香川 慶輝(18) 宮崎 啓史(12)	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験 100%
担当者名	担当講義に関する実務経験					
到達目標	解剖学と生理学を連携しながら、人体の構造と機能の基礎について学ぶことを目的とする。神経系と皮膚を含めた感覚器の構造と機能を理解する。さらに生殖器系と免疫系について学ぶ。					
授業概要	神経系とそれと関連して機能する感覚器について講義をした後、人体の外部からの異物の侵入に対して、どのような防御や免疫機構ができていくのかについて、さらに種の保存のための生殖器系について講義する。					
学習者への期待 (準備学習含む)	前期の時と同様に、復習を心がけることが大切です。もし神経や感覚器模型が用意されていたらそれらを使って、神経系や感覚器の構成や構造を理解することも試みてください。きっと役立つはずです。					
回数	単元	授業内容				授業方法・担当
1	1. 神経系と感覚器	1 神経系総論				講義・香川
2		2 中枢神経系の構成と機能 ①脊髄				
3		3 中枢神経系の構成と機能 ②脳				
4		4 脊髄神経と脳神経の構造とその支配領域				
5		5 脳の機能、神経の伝導路				
6		6 自律神経の構造とその機能				
7		7 視覚器の構造とその機能				
8		8 平衡聴覚器の構成とその機能、皮膚構造と感覚				
9	2. 免疫	1 総論、非特異的防御機能				講義・宮崎
10		2 特異的防御機能				
11		3 体温とその調整及び発熱の意義				
12	3. 生殖器	1 男性生殖器の構成と構造				
13		2 女性生殖器の構成と機能				
14		3 女性生殖器とその機能的連携、受精と発生				
15	単位認定試験・まとめ					
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院					
参考文献						
備考						

領域	専門基礎分野		科目	生化学		担当	廣野 治子 阿部 知顕	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
到達目標		基礎分野における生命現象の科学の学習に、生命活動を支える細胞や生体物質の構造及び、生理機能と食物として外界から取り込んだ物質の利用、すなわち代謝とその調節について学ぶ。						
授業概要		人々の健康増進のため、高度な医療に対応するため、また、豊かな健康・福祉生活を送るための、生化学の基礎知識を学ぶ。食事と栄養について、体内で消化されてから代謝されていくプロセスについての生化学的知識を習得する。						
学習者への期待 (準備学習含む)		理解できない点は、テキストを参考にしたり、質問したりすることで解決してほしい。毎回でてくる用語が難しい場合は、予習して調べておくこと。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	生体を構成する物質		代謝とは 代謝、異化と同化、物質代謝とエネルギー				講義・廣野	
2			生命維持に必要な栄養素の構造と性質・・・ 糖質・脂質・たんぱく質 生命維持に必要な栄養素の構造と性質・・・ 核酸・ビタミンと補酵素					
3								
4								
5	生体内の物質代謝		糖質代謝 ①糖質代謝について ②グルコースの分解・糖新生・グリコーゲンの代謝				講義・阿部	
6								
7			脂質代謝 ①脂質の消化と吸収 ②脂肪酸の分解・ケトン体産出と利用 ③脂肪酸・トリグリセリド・コレステロール再合成					
8								
9			タンパク質代謝 ①タンパク質の消化と吸収 ②アミノ酸からの合成					
10								
11			代謝異常 ①骨粗鬆症 ②糖尿 ③脂質異常症・高尿酸血症・痛風					
12								
13	遺伝情報とその発現		遺伝情報 ①遺伝情報とは ②DNAの損傷と修復					
14								
15	単位認定試験・まとめ							
教科書		シンプル生化学（南江堂）林、廣野、野口、五十嵐編						
参考文献		コンパクト栄養学（南江堂）脊山、廣野、久保田、寺本編						
備考								

領域	専門基礎分野		科目	微生物		担当	齋藤 紀行		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
到達目標		病原微生物の種類とそれぞれの相違を理解して感染症の起こり方を学び、感染症の予防に関する専門的な知識・方法を修得する。							
授業概要		われわれの生活にはさまざまな微生物が生育し、感染症を起こす可能性があることを理解させ、微生物の性質、構造について解説する。感染症の成立には生体側の要因が、強く関係することを免疫学の項で説明し、感染症の予防法を考えさせる。							
学習者への期待 (準備学習含む)		予習・復習をして授業に臨むこと。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	微生物学の基礎		微生物学のあゆみ				講義		
2			微生物学の概要				講義		
3	感染と発症		病原体と生体				講義		
4			感染経路				講義		
5			病原体の病原性				講義		
6	免疫		生体防御のしくみ				講義		
7			獲得免疫				講義		
8			腸管免疫				講義		
9	感染症の予防・治療		滅菌と消毒				講義		
10			化学療法				講義		
11	微生物と感染症		細菌感染症-1				講義		
12			細菌感染症-2				講義		
13			ウイルス感染症				講義		
14			真菌・原虫感染症				講義		
15	単位認定試験と解説								
教科書		新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 微生物学 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	専門基礎分野	科目	栄養学		担当教員	日野 美代子			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	80%	授業態度	20%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
日野 美代子		管理栄養士として病院勤務							
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1 栄養素の機能と消化吸収について理解する。 2 各食品における栄養価の特徴と食事バランスガイドについて理解し、バランスのとれた食事の提案ができる。 3 栄養ケア・マネジメントの目的と必要性を理解し、個々の状態に適した栄養補給の選択ができる。 4 各疾患及びライフステージにおける栄養ケア・マネジメントの在り方について理解する。 							
授業概要		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒトが生きていくために必要な栄養素の種類や生理機能について概説し、どのような食品に含まれているのかを学ぶ。 ・傷病者の病態や栄養状態に基づいた食事・栄養補給法を理解し、各疾患及びライフステージにおける栄養ケアマネジメントを行うための理論と方法を学修する。 							
学習者への期待 (準備学習含む)		教科書や配付資料等を用いて予習・復習し、要点をまとめておくこと。							
回数	項目	授業内容				授業方法			
1	授業ガイダンス	栄養学とは				講義			
2	栄養素の消化と吸収	消化器のしくみ 五大自然栄養素の消化吸収				講義			
3	栄養素の種類と働き(1)	三大栄養素と代謝				講義			
4	栄養素の種類と働き(2)	ビタミン、ミネラル、その他の栄養素				講義			
5	食品に含まれる栄養素	三色食品群、六つの基礎食品群 食事バランスガイド				講義			
6	栄養ケア・マネジメント	栄養ケア・マネジメントとは？ 栄養状態の評価・判定				講義			
7	治療食と栄養補給法	経口栄養法、経腸栄養法、静脈栄養法の 選択と種類について				講義			
8	疾患別食事療法	栄養・代謝疾患				講義			
9	疾患別食事療法	循環器疾患、消化器疾患				講義			
10	疾患別食事療法	腎臓疾患、食物アレルギー				講義			
11	ライフステージと栄養	妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、思春期 成人期、高齢期				講義			
12	摂食嚥下障害と栄養	摂食・嚥下のメカニズムとその障害 摂食・嚥下機能に適した嚥下食の提供基準				講義			
13	栄養管理の実際	栄養ケア・マネジメントの取り組みについて(病院)				講義			
14	栄養指導の実際	入院・外来での栄養相談の取り組みについて(病院)				講義			
15	単位認定試験・まとめ								
教科書		栄養学の基本 渡邊昌監修、マイナビ出版 (1,790円+税)							
参考文献		授業時に必要に応じて推薦する。							
備考		20分以上の遅刻は欠席とみなす。							

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学 I		担当	日高 輝久	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
到達目標		対象を理解し、より良いケアを行うためには、病理学の知識を持つ必要がある。人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する。主な症状・兆候のメカニズムを理解する。						
授業概要		病理学とはどんな学問か。その領域や健康を維持するための生体の回復力及び病気へのなりやすさについて、その概要を学ぶ。また、病理解剖、診断病理学の医療における役割についてや、細胞・組織とその障害。再生と修復。循環器障害、炎症。免疫とアレルギー代謝異常。老化。先天異常。腫瘍の概略を学ぶ。各論としては、循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系などの機能と主な障害の機序について学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)		病理学は医学の基本となる学問の一つである。疾患に関する基礎的な知識の理解、習得に努めてほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法	
1	病理学とは		病気の原因（内因、外因） ①外因：栄養障害、物理的因子、化学的因子、生物学的因子 ②内因：素因、先天異常、遺伝子・染色体異常、免疫異常				講義	
2	代謝障害		代謝障害、細胞・組織とその障害				講義	
3	全身の循環障害		全身の循環障害 ①リンパの循環障害 ②血液の循環障害 ③高血圧症				講義	
4	炎症		炎症・免疫・膠原病 ①炎症、創傷の治療 ②生体防御と免疫、T細胞による抗原認識と免疫応答 ③移植と再生医療				講義	
5	アレルギーと自己免疫疾患		アレルギーの分類 ①アナフィラキシー ②免疫不全 ③免疫疾患				講義	
6	感染症		感染症と病原体 ①感染に対する生体防御のしくみ ②病原体と感染症				講義	
7	腫瘍		腫瘍の定義と分類 ①腫瘍の転移と進行度、腫瘍の発生病理 ②腫瘍の診断と治療				講義	
8	循環器の疾患		代表的な疾患の理解、血管の疾患、心臓の疾患				講義	
9	造血器・リンパ節・脾臓の疾患		造血器・リンパ節・脾臓の疾患 ①骨髄と血管の疾患、リンパ節の疾患、脾臓の疾患 ②血液疾患				講義	
10	呼吸器疾患		肺・胸膜・縦隔の疾患 ①鼻腔・咽頭・喉頭の疾患 ②気管・気管支・肺の疾患；肺炎、肺がん				講義	
11	【消化管の疾患】		①口腔、食道の疾患 ②胃・腸・肛門の疾患				講義	
12	【肝臓、胆道、脾臓の疾患】		肝臓・胆道・脾臓の疾患 ①肝臓の疾患、胆道、胆嚢の疾患 ②脾臓の疾患 ③腹膜の疾患				講義	
13	【腎・泌尿器の疾患】		腎・泌尿器の疾患 ①腎臓の疾患、尿路の疾患 ②膀胱・尿道の疾患 ③生殖器の疾患 ④乳腺の疾患				講義	
14	【内分泌系、中枢神経系の疾患】		内分泌系、中枢神経系の疾患 ①代表的な疾患の病理 ②病態理解のための基礎知識				講義	
15	単位認定試験							
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学Ⅱ		担当	松木 琢磨		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
松木 琢磨		医師として病院勤務。小児科専門医、腎臓専門医。							
到達目標		<p>【呼吸器】呼吸器疾患の基礎的知識を理解する。口腔ケア、呼吸リハビリ、家庭生活の指導等、看護師が呼吸器病の予防と管理に果たす役割が大きいことを理解する。</p> <p>【循環器】循環器系の構造・機能、循環器疾患（高血圧症・虚血性心疾患・不整脈・心不全など）の病態生理・診断・治療について学び、理解を深め、看護援助に活かす。</p> <p>【腎・泌尿器】腎・泌尿器系の構造と機能、各種疾患の病態生理と診断学について学び、看護援助に活かす。</p>							
授業概要		<p>呼吸機能障害、循環機能障害、排泄機能障害について理解する。</p> <p>呼吸機能障害では呼吸器感染症・肺癌・慢性閉塞性肺疾患・呼吸不全等、循環機能障害では虚血性心疾患・不整脈・高血圧・心不全等、排泄機能障害は腎疾患・尿路系疾患・男性生殖器の病態生理、診断、治療について学ぶ。</p>							
学習者への期待 (準備学習含む)		<p>【呼吸器】ただ授業を受身で聞くのではなく、「なぜ?」「自分ならどうするか?」と自分の頭で考えながら積極的に授業に参加してほしい。</p> <p>【循環器】【腎臓・泌尿器】予習と復習を行い、知識を確実に身に付けること。</p>							
回数	単元		授業内容				授業方法		
1	1.呼吸器のしくみとその異常		1 呼吸をすることとは：肺の解剖 呼吸器疾患の特殊性				講義		
2			2 肺癌、手術後の看護				講義		
3			3 慢性閉塞性肺疾患、その他の呼吸器疾患				講義		
4							講義		
5			4 肺炎、誤嚥性肺炎（口腔ケア等、看護師の重要性）				講義		
6	2.循環器のしくみとその異常		1 循環器系の構造と機能、高血圧症				講義		
7			2 虚血性心疾患				講義		
8			3 不整脈				講義		
9			4 心筋疾患、弁膜症、血管疾患				講義		
10			5 心不全、先天性心疾患				講義		
11	3.腎臓・泌尿器のしくみとその異常		1 腎臓・泌尿器系の病態・生理と診断学				講義		
12			2 各種腎炎・腎不全・透析				講義		
13			3 腎・泌尿器の腫瘍、前立腺疾患				講義		
14			4 排尿障害・神経因性膀胱				講義		
15	単位認定試験								
教科書		<p>【呼吸器】系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 医学書院</p> <p>【循環器】系統看護学講座 成人看護学3 循環器 医学書院</p> <p>【腎臓・泌尿器】系統看護学講座 成人看護学8 腎臓・泌尿器 医学書院</p>							
参考文献									
備考									

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学Ⅲ		担当	齋藤 淑子(20) 東海林 互(10)		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
齋藤 淑子		血液・循環器専門医師として病院勤務経験を有する							
東海林 互		病院内科医師として勤務							
到達目標		【消化器】 消化器系の構造、機能について理解し、疾患の病態や基本的な治療法を身に付ける。 【内分泌】 内分泌機能の生体内での役割につき理解し、内分泌疾患・糖尿病・生活習慣病について学び、治療法や発症予防について理解を深める。							
授業概要		内部環境調節障害、消化・吸収機能障害について理解する。 内部環境調節障害では甲状腺機能障害・乳腺疾患・副腎機能障害・糖尿病・痛風等の内分泌・代謝系疾患の病態生理、診断、治療について理解する。消化・吸収機能障害では消化性潰瘍・消化器癌・炎症性疾患・肝硬変・胆石症・イレウス等の病態生理、診断と治療について学ぶ。							
学習者への期待 (準備学習含む)		【消化器】 テキストや参考書を繰り返し読んで内容を比較しながら理解を深めてください。医学は日進月歩のため新しい知識を得る。 【内分泌】 ホルモンの産生部位とその主な作用などの基本を知る。ホルモン産生分泌や作用の異常による疾患の病態について理解する。国民病である糖尿病の成因メカニズム、治療、合併症、予防やセルフケアと脂質代謝、肥満、メタボリック症候群についても併せて学ぶ。指定の教科書の当該項目につき事前に目を通して予習し、復習も怠らないこと。							
回数	単元		授業内容				授業方法・担当		
1	1. 消化・吸収のしくみとその異常		消化器疾患総論、構造と機能、消化器の症状と徴候と病態生理				講義・齋藤 淑子		
2			消化器一般検査と画像診断 (レントゲン、超音波、内視鏡、CT、MRI、PET等)、処置						
3			膵外分泌と内分泌。急性膵炎、重症膵炎、慢性膵炎、膵臓癌、膵内分泌腫瘍						
4			胆嚢ポリープ、胆石症、胆嚢炎、胆管炎、胆道腫瘍、膵胆管合流異常症						
5			急性肝炎、肝炎ウイルス、慢性肝炎、アルコール性肝障害、脂肪肝、NASH、自己免疫性肝炎						
6			原発性胆汁性肝硬変、肝硬変、門脈圧亢進症、肝細胞癌、胆管細胞癌						
7			食道癌、アカラジア、逆流性食道炎						
8			急性胃粘膜病変、消化性潰瘍、胃癌						
9			感染性腸炎、虫垂炎、炎症性腸疾患、大腸癌、腹膜炎、腸閉塞等						
10	2. 内分泌・代謝のしくみとその異常		内分泌・代謝学総論、フィードバック機構				講義・東海林 互		
11			下垂体-副腎系、副腎皮質ホルモンと副作用						
12			甲状腺及び副甲状腺の機能とその異常						
13			糖尿病をめぐる諸問題						
14			脂質異常症と肥満、生活習慣病、痛風						
15	単位認定試験								
教科書		【消化器】 系統看護学講座 成人看護学 5 消化器 医学書院 【内分泌・代謝】 系統看護学講座 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学IV		担当	佐藤 哲朗(14) 藤村 幹(4) 矢澤 由加子(4) 齋藤 敦志(2) 大沼 歩(6)		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
佐藤 哲朗		病院長として勤務。日本整形外科学会専門医・脊椎脊髄外科指導医							
藤村 幹		副院長として勤務。専門分野：脳卒中の外科治療、もやもや病、良性脳腫瘍など脳神経外科全般							
矢澤 由加子		病院医師として勤務。専門分野：脳卒中の内科治療							
齋藤 敦志		病院医師として勤務。専門分野：脳卒中の外科治療、脳腫瘍の外科治療							
大沼 歩		病院顧問医師。専門分野：神経生理検査（脳波・大脳誘発電位・筋電図・末梢神経伝導検査など）							
到達目標		<p>【運動】スポーツ外傷、障害（靭帯、半月板損傷など）の増加、高齢者自立した生活を営むためには運動器（骨、関節、筋、神経など）の健康の重要性が増しており、運動器におこる疾患・治療について理解する。</p> <p>【脳神経】中枢神経の基本的な解剖と生理を学び、外傷や脳血管障害・脳腫瘍などの代表的な脳神経外科疾患とその症状・症候との関係を理解できるようにする。</p> <p>【神経内科】将来、療養の現場でそれぞれの症例において個々の基本的な問題を把握し、それに対する基本的な看護ができる能力を得ることができるとを目標とする。</p>							
授業概要		各科の診断、診察、病態の考え方、治療方法についてを概説する。							
学習者への期待（準備学習含む）		各科の病態を理解したうえで、看護に取り組めるように学んでほしい。							
回数	単元		授業内容			授業方法・担当			
1	1. 運動器のしくみとその異常		1 運動器疾患総論			講義・佐藤 哲朗			
2			2 外傷性運動器疾患						
3									
4									
5									
6									
7	2. 脳・神経の働きとその異常		1 救急現場での神経症状や画像診断			講義・矢澤 由加子			
8			2 脳血管障害、その他			講義・藤村 幹			
9									
10									
11	3 脳腫瘍			講義・齋藤 敦志					
12	3. 神経内科		1 変性性神経疾患、脱髄疾患、末梢神経疾患及び認知症等について特に基本的事項について			講義・大沼 歩			
13									
14									
15	単位認定試験								
教科書		<p>【運動器】系統看護学講座 成人看護学 [10] 運動器 医学書院</p> <p>【脳神経】系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院</p> <p>【神経内科】系統看護学講座 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院</p> <p>臨床外科看護総論 医学書院</p> <p>臨床外科看護各論 医学書院</p>							
参考文献									
備考									

領域	専門基礎分野		科目	病態治療学Ⅴ		担当	日高 輝久(12) 川村 仁(2) 佐々木 勝忠(2) 齋藤 淑子(14)			
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法				
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%	
担当者的名		担当講義に関する実務経験								
齋藤 淑子		血液・循環器専門医師として病院勤務経験を有す								
川村 仁		歯学医師として大学病院勤務経験を有す								
佐々木 勝忠		歯科医師として診療所・病院勤務経験を有す								
到達目標		<p>【皮膚疾患】 日常に遭遇する基本的な皮膚疾患についての治療を学ぶ。</p> <p>【耳鼻咽喉疾患】 耳・鼻・のどの解剖を理解し、関連疾患の病態・治療を学習する。</p> <p>【眼科疾患】 眼科全般への基礎的な理解を得ること。それらを踏まえた患者介護の知識を修得する。</p> <p>【歯・口腔疾患】 歯・口腔の機能を理解し、関連疾患の病態・治療を学習する。</p> <p>【血液・造血器疾患】 血液の生理としくみを理解し、血液の生理と造血器の診断と病候・病態生理、疾患と治療について理解する。</p> <p>【女性生殖器疾患】 女性生殖器に関する基本的知識・病態と治療の学習を基にして、妊娠期・分娩期の看護について学ぶ。</p>								
授業概要		各科の診断、診察、病態の考え方、治療方法についてを概説する。								
学習者への期待 (準備学習含む)		各科の病態を理解したうえで、看護に取り組めるように学んでほしい。								
回数	単元		授業内容				授業方法・担当			
1	1. 皮膚疾患		1 皮膚の構造・機能、各種皮疹疾患				講義・日高 輝久			
2			2 皮膚感染症、熱傷（分類と治療の基本）、褥瘡							
3	2. 耳鼻咽喉疾患		1 耳・鼻・顔面神経痛							
4			2 咽喉、頭頸部腫瘍							
5	3. 眼科疾患		1 眼科疾患							
6			2 検査、治療・処置、手術							
7	4. 歯・口腔疾患		1 歯・口腔疾患、検査・治療・処置				講義・川村 仁			
8			2 口腔ケア				講義・佐々木 勝忠			
9	5. 血液・造血疾患		1 血液の正常性と血液の正常性と破綻				講義・齋藤 淑子			
10			2 造血器系疾患の病態、症状、検査、治療①							
11			3 造血器系疾患の病態、症状、検査、治療②							
12	6. 女性生殖器		女性生殖器の病態生理構造、診断、検査、治療、予防①							
13			女性生殖器の病態生理構造、診断、検査、治療、予防②							
14			女性生殖器の病態生理構造、診断、検査、治療、予防③							
15	単位認定試験									
教科書		系統看護学講座 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護学講座 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 成人看護学15 歯・口腔 医学書院								
参考文献		系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 医学書院								
備考										

領域	専門基礎分野		科目	薬理学		担当	木村 勝彦		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
木村 勝彦		病院薬剤部勤務経験有り。							
到達目標		教育を「学習者の行動（知識・技術・態度）に価値ある変化をもたらすこと」と捉えています。そのため、学習者の到達すべき目標を設定し「学習者の行動に価値ある変化をもたらしたく」思います。まずは、薬という物質がどうやって体内で働いているかを知り、病態への薬の選択ができることを目的とし、最終的には薬物療法への興味とその重要性を理解できた看護師の養成を到達目標とする。							
授業概要		医薬品の作用機序、生体内動態、有効性、安全性や投与方法など、薬理学的知識とその活用を学ぶ。総論では生体に対する薬物の作用の仕組み、薬理効果と副作用、薬物体内動態などを学ぶ。各論では、感染性疾患や免疫系・神経系・内臓系などの疾患に用いられる薬物について種類や特徴あるいはその用い方などを学ぶ。さらにはがん患者に対する化学療法について認識を深める。これらを学ぶことより、看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的基礎知識を習得する。							
学習者への期待 (準備学習含む)		薬理学というとても難解な学問を、今回使用する教科書は非常にわかりやすく解説しています。従ってまずは、教科書を必ず読んで受講してください。薬の作用機序は講義を聞かないとなかなか理解できません。わかりやすく説明しますので、まず、薬理学に親しみをもち、好きな教科となるよう期待します。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	総論		薬理学とは。薬理学の役割と目的。薬物体内動態、薬理作用について説明。				講義		
2			「なぜ薬が効くのか」その仕組みを全体的な視野でわかりやすく説明する。				講義		
3	痛みをとる薬 熱を下げる薬		痛みの原因、解熱鎮痛薬その作用機序。				講義		
4	中枢神経にはたらく薬		向精神薬、鎮静睡眠薬、抗パーキンソン病薬、抗テンカン薬の説明。				講義		
5	末梢神経にはたらく薬 神経にはたらくその他		体性神経と自律神経。筋肉を弛緩させる筋弛緩薬の説明。				講義		
6			交感神経・副交感神経、神経にはたらくその他薬の説明。				講義		
7	オータコイドに関連する薬		抗炎症薬。抗ヒスタミン薬、抗痛風薬、抗リウマチ薬の説明。				講義		
8	心臓・血管にはたらく薬		強心薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬、降圧薬、高脂血症薬の説明				講義		
9	血液はたらく薬		貧血治療薬、止血薬、抗凝固薬、抗血小板薬の説明。				講義		
10	呼吸器のはたらく薬		鎮咳薬、去痰薬、気管支喘息薬、結核薬の説明				講義		
11	胃腸にはたらく薬		消化性潰瘍薬、鎮けい薬、鎮吐薬、止瀉薬、瀉下薬の説明。				講義		
12	体内環境を整える薬		ビタミン薬、ホルモン、ホルモンに関わる薬。				講義		
13	病気の原因を抑える薬		抗生物質、合成抗菌剤、抗ウイルス薬、抗菌薬、ワクチンの説明				講義		
14	がんを抑える薬 消毒薬と漢方薬		腫瘍とがんと肉腫、がん細胞、抗がん薬。滅菌と消毒。漢方の基本の説明。				講義		
15	単位認定試験試験・まとめ								
教科書		超入門 新薬理学 小山岩雄 株式会社照林社							
参考文献		特になし							
備考									

領域	専門基礎分野		科目	総合医療論		担当	日高 輝久		
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	前期	1単位	15時間	8回	講義	単位認定試験	90%	受講態度	10%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
到達目標		1 医療や看護の原点、現代医療の実像と新しい展開、医療をめぐる今日の議論を学び、現代医療や介護の全体像を把握し、国民の求める医療や期待される医療人像が理解できる。 2 幅広い視野を持ち、新時代に求められる看護師像について自分で考えるきっかけにできる。							
授業概要		看護の「心」、医療と看護の原点、医療の歩みと医療観の変遷、私たちの生活と健康、科学技術の進歩と現代医療の最前線、現代医療の新たな課題、医療を見つめ直す新しい視点、保健・医療・福祉の潮流等について学ぶ。							
学習者への期待 (準備学習含む)		看護職とは医療技術の進歩と新しい社会規範に即応しつつも、人間心理の深い理解に裏打ちされた専門職であることを自覚し、よい看護とは、よい看護師にはどのような資質が必要か等、自らの経験を振り返ることを通じて職業人として成長していけるようにしてほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	序章 医療コミュニケーションの 原点		A 看護の「心」 B 専門職としての医師と看護師 C 援助される者と援助する者 D 病める者の自立への援助				講義		
	第1章 医療と看護の原点		A 命について考える B 健康とは C 病の体験 D 癒しの行為と癒しの知 E チーム医療とマネジメント						
2	第2章 医療の歩みと医療観の変遷		A 現代医学の起源 B わが国の医療がたどってきた道 C 20 世紀の医療 D 医療観の移り変わり						
3	第3章 私たちの生活と医療		A もし病気やけがをしたら B 私たちの生活と環境衛生、保健、福祉行政 C 疾病の一次予防と健康増進 D 少子高齢社会と世代間のきずな E 障害者のノーマライゼーションと社会的包摂 F 心の健康と精神医療						
4	第4章 科学技術の進歩と現代医療 の最前線		A 科学技術の進歩と社会・生活の変化 B 現代医学と先端医療技術の最前線						
5	第5章 現代医療の新たな課題		A 薬の副作用と手術の偶発症 B 医原病という考え方とケアの実践 C 先端医療がもたらす倫理上のジレンマ D 生命倫理学と臨床倫理学の展開 E 産業社会の発展と地球環境問題 F 医療不信から「賢い患者へ」 G インフォームドコンセントと医療情報開示						
6	第6章 医療を見つめ直す新しい視 点		A 臨床疫学 B 患者の安全 C 医療の管理と評価 D これからの先端医療開発 E 情報化社会と医療						
7	第7章 保健・医療・福祉の潮流		A 医療変革の波と共に始まった21世紀 B 新時代の保健・医療の担い手 C プライマリケアの新たな展開 D 医療における視点 E 保健・医療の国際化 F 地域包括医療システムの新しい課題 G 保健・医療・福祉システムと地域住民の役割 H 地球時代におけるケア						
8	単位認定試験・まとめ								
教科書		系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院							
参考文献									
備考									

領域	専門分野 I		科目	看護学概論		担当	太田 久子	
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義・GW	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
太田 久子		臨床での看護実践、管理業務、看護教員と看護全般にわたる経験を有す						
到達目標		<ol style="list-style-type: none"> 1 看護の本質及び看護の理念が理解できる 2 看護の対象を「生活・社会・環境」との関連から総合的に理解できる 3 健康や障害の概念を知り、看護と関連付けて理解できる 4 看護の機能について専門職業と関連付けて理解できる 5 看護の担うべき社会的使命について考察できる 6 看護における倫理を理解できる 						
授業概要		看護の歴史を概観するとともに「人間」「環境」「健康」「看護」の概念をもとに看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かを学ぶ。また、看護の歴史の変遷を学び、現代医療における看護の役割について学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)		看護を学ぶ者の道標として看護概論がある。看護の道を志した動機はさまざまであるが、看護の対象である人間を理解し、看護とはなにか「考え方」を身に付けてほしい。また、将来の自分の看護師像を描きつつ、講義にご参加ください。						
回数	項目		授業内容			授業方法		
1	1 看護とは		①看護の本質			講義		
2			②看護の役割と機能			講義		
3			③看護の継続と情報共有			講義		
4	2 看護の対象の理解		①人間の「こころ」と「からだ」			講義		
5			②生涯発達し続ける存在			講義		
6			③人間の「暮らし」の理解			講義		
7	3 国民の健康・生活の全体像の把握		①健康のとらえ方			講義		
8			②国民のライフサイクルと健康生活			講義		
9	4 看護の提供者		①職業としての看護 ②看護職の資格と養成			講義		
10			③看護職の就業状況と継続教育			講義		
11			④看護職の養成制度の課題			講義		
12	5 看護における倫理		①医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理			講義		
13			②看護実践における倫理問題への取り組み			講義・GW		
14	6 看護提供のしくみ		①サービスとしての看護 ②看護サービスの提供の場			講義		
15	単位認定試験・まとめ							
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 医学書院						
参考文献		<ul style="list-style-type: none"> ・科学的看護論 著：薄井坦子 日本看護協会出版 ・看護覚え書き 著：F. ナイチンゲール 訳：湯槇ます他 現代社 ・看護の基本となるもの 著：V. ヘンダーソン 訳：湯槇ます他 日本看護協会出版社 ・看護者の基本的責務 監修：手島 恵 日本看護協会出版社 						
備考								

領域	専門分野 I		科目	基礎看護学援助論 I		担当	宇野 由佳	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	通年	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
宇野 由佳		臨床における看護実践経験、接遇指導経験を有す						
守 花絵		内科・外科病棟、外来にて臨床看護実践経験を有す。デイケア、訪問看護ステーションにおいて看護実践経験を有す。						
到達目標		1 人間関係を成し発展させるための技術の基本を理解する。 2 人間の成長を促すための技術の基本を理解する。 3 感染防止の意義を理解し、安全を守る技術を修得する。						
授業概要		看護援助を提供する上で重要な人間関係を形成するためのコミュニケーション技術について学習する。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解し、安全・安楽に実施できる能力を身に付ける。感染防止の知識を学び、無菌操作・消毒の技術を身に付け安全に援助できるように習得する。						
学習者への期待 (含む準備学習)		「考え方」「向き合い方」を大事にしています。看護技術を提供する土台となる部分なので、積極的に学習していきましょう。						
回数	単元		授業内容			授業方法・担当		
1	1. コミュニケーション		コミュニケーションの意義、目的、構成要素と成立過程			講義・宇野		
2			効果的なコミュニケーションの実際			講義・宇野		
3			演習：看護場面でのコミュニケーション			演習・宇野		
4								
5			演習：プロセスレコードの意味と実際			演習・宇野		
6								
7	2. 安全な医療環境		感染防止の基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策			講義・宇野 守		
8			演習：衛生的な手洗い スタンダードプリコーション			演習・宇野 守		
9								
10			洗浄、消毒、滅菌			講義・宇野 守		
11			演習：滅菌手袋装着・滅菌ガウンの着用			演習・宇野 守		
12								
13			演習：無菌操作			演習・宇野 守		
14								
15	単位認定試験・まとめ					宇野 守		
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I (基礎看護学②) 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II (基礎看護学③) 医学書院						
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社						
備考								

領域	専門分野 I		科目	基礎看護学援助論 II		担当	宇野 由佳
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	通年	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験（筆記）・実技試験 ともに60点以上で合格 （筆記）＋（実技）／2＝科目としての最終評価	
担当者名		担当講義に関する実務経験					
宇野 由佳		救急外来、ICU、HCUにおける臨床看護実践経験、呼吸療法認定士の資格を有す					
到達目標		1 対象の健康状態を評価するための技術を理解する。 2 看護における記録・報告の意義と方法を理解する。					
授業概要		個別的で適切な看護援助を実施するためのフィジカルアセスメントについて学習する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能をイメージしながら、理解していきましょう。分からないことは、そのままにせず確認しながら繰り返し練習し身に付けていきましょう。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	ヘルスアセスメント		ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント フィジカルアセスメントに必要な技術			講義・宇野	
2			バイタルサインの観察とアセスメント			講義・宇野	
3			演習：体温・脈拍・呼吸の測定と報告 記録の仕方			演習・宇野	
4							
5			演習：血圧の測定（触診法・聴診法）と報告			演習・宇野	
6							
7			呼吸器系のフィジカルアセスメント			講義・宇野	
8			循環器系のフィジカルアセスメント			講義・宇野	
9			腹部・乳房のフィジカルアセスメント			講義・宇野	
10			演習：胸腹部のフィジカルイグザミネーション			演習・宇野	
11			筋・骨格系のフィジカルアセスメント			講義・宇野 下山	
12			神経系のフィジカルアセスメント			講義・宇野 下山	
13			頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメント			講義・宇野 下山	
14			心理・社会状態のアセスメント			講義・宇野 下山	
15	単位認定試験・実技試験					宇野 鈴木 下山	
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I（基礎看護学②） 医学書院					
参考文献		フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 呼吸音聴診ガイドブック 医学書院					
備考							

領域	専門分野 I		科目	基礎看護学援助論Ⅲ		担当	武田 藍
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験（筆記）・実技試験 ともに60点以上で合格 （筆記）＋（実技）／2＝科目としての最終評価	
担当者名		担当講義に関する実務経験					
武田 藍		内科、外科病棟・外来にて臨床看護実践経験を有す。特別養護老人ホームにて看護実践経験有					
鈴木 久美子		急性期・慢性期病棟にて、臨床看護実践経験を有す					
到達目標		1 活動・休息・苦痛の緩和について基礎知識を理解し、基本的援助技術を修得する。 2 環境の意義を理解し、対象にとって安全・安楽な環境を整えるための技術を修得する。					
授業概要		活動・休息、苦痛の緩和に関わる基本的な技術を既習の知識と技術を活用しながら実践できる能力を身に付ける。 看護の観点から生活行動を捉え、生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。健康に資する生活行動の看護技術の科学的根拠を理解し、基礎的な実践能力を身に付ける。					
学習者への期待 (含む準備学習)		患者の療養生活に関わる基本的な技術の修得を目的としているので、提示された課題を作成し、積極的に演習に参加すること。					
回数	単元		授業内容			授業方法・担当	
1	1.活動と休息		基本的活動の援助 ボディメカニクス技術の原理			講義・武田 守	
2			睡眠・休息の援助			講義・武田 守	
3			苦痛の緩和・安楽確保の技術			講義・武田 守	
4			演習：体位変換・ポジショニング			演習・武田 守	
5							
6			移乗・移送の援助			講義・武田 守	
7			演習：移乗・移送			演習・武田 守	
8							
9	2.安全・安楽な療養環境		病床環境調整の目的方法、病床を整える援助の実際 療養環境の意義、病室の環境アセスメントと調整			講義・武田	
10			演習：ベッドメイキング			演習・武田	
11							
12			病床を整える援助の実際・転倒・転落予防			講義・武田	
13			演習：環境整備・臥床患者のシーツ交換			演習・武田	
14							
15	単位認定試験・実技試験					武田 守	
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院					
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社					
備考							

領域	専門分野 I		科目	基礎看護学援助論Ⅳ		担当	武田 藍	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	前期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験（筆記）		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
武田 藍		内科、外科病棟・外来にて臨床看護実践経験を有す。特別養護老人ホームにて看護実践経験有						
到達目標		清潔と衣生活の意義を理解し、基本的援助技術を修得する。						
授業概要		看護の観点から生活行動を捉え、生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解し、安全・安楽に実施できる能力を身に付ける。活動・休息、清潔・衣生活に関わる生活過程を整えるための基本的な技術を既習の知識と技術を活用しながら実践できる能力を身に付ける。						
学習者への期待 (含む準備学習)		援助方法を学ぶだけではなく人間の生活行動と関連付けて考えながら、主体的に学習していきましょう。						
回数	単元		授業内容			授業方法・教員		
1	清潔・衣生活		清潔援助の基礎知識 清潔援助の実際① 入浴・シャワー浴			講義・武田		
2			清潔援助の実際② 全身清拭・陰部洗浄			講義・武田		
3			衣生活援助の基礎知識 援助の実際（寝衣交換）			講義・武田		
4			演習：臥床患者の全身清拭 寝衣交換（ガウンタイプ・セパレートタイプ）			演習・武田		
5								
6			清潔援助の実際③ 手浴・足浴			講義・武田		
7			演習：臥床患者の手浴			演習・武田		
8								
9			演習：臥床患者の足浴			演習・武田		
10								
11			清潔援助の実際④ 洗髪			講義・武田 下山		
12			演習：臥床患者の洗髪、洗髪台を用いた洗髪			演習・武田 下山		
13								
14			清潔援助の実際⑤ 整容 口腔ケア			講義・武田 下山		
15			単位認定試験・まとめ					武田 下山
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院						
参考文献		基礎看護技術 医学書院 看護がみえる メディックメディア 看護技術 講義・演習ノート 上巻 サイオ出版						
備考								

領域	専門分野 I		科目	基礎看護学援助論 V		担当	武田 藍	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1 年次	通年	1 単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
武田 藍		内科、外科病棟・外来にて臨床看護実践経験を有す。特別養護老人ホームにて看護実践経験有						
鈴木 久美子		急性期・慢性期病棟にて、臨床看護実践経験を有す						
到達目標		1 健康と栄養の関連について理解し、栄養状態を整えるための基本的援助技術を習得する。 2 排泄の意義を理解し、基本的看護技術を修得する。						
授業概要		看護の観点から生活行動を捉え、生活行動が健康に及ぼす影響を理解する。看護技術の科学的根拠と正確な方法を理解し、安全・安楽に実施できる能力を身に付ける。食事・排泄に関わる生活過程を整えるための基本的な技術を既習の知識と技術を活用しながら実践できる能力を身に付ける。						
学習者への期待 (含む準備学習)		人体の構造と機能をイメージしながら、理解していきましょう。分からないことはそのままにせず確認しながら繰り返し練習し身につけていきましょう。						
回数	単元	授業内容					授業方法・担当	
1	1. 食事	食事援助の基礎知識 経鼻経管栄養法					講義・武田	
2		食事援助の実際					講義・武田	
3		摂食・嚥下障害 摂食・嚥下訓練 非経口的栄養摂取の援助					講義・武田	
4		演習：臥床患者、視覚障害のある患者の食事介助					演習・武田	
5								
6		演習：口腔ケア					演習・武田	
7								
8	2. 排泄	排泄の基礎知識					講義・武田 鈴木	
9		自然排尿及び排便を促す援助					講義・武田 鈴木	
10		演習：臥床患者の排泄援助（便器・尿管挿入、陰部洗浄）					演習・武田 鈴木	
11								
12		浣腸、導尿、摘便の基礎知識					講義・武田 鈴木	
13		演習：浣腸					演習・武田 鈴木	
14								
15	単位認定試験・まとめ					武田 鈴木		
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II（基礎看護学③） 医学書院						
参考文献		看護技術プラクティス 竹尾恵子監修 学研 決定版ビジュアル臨床看護技術 照林社						
備考								

領域	専門分野 I	科目	基礎看護学援助論VI	担当	太田 久子				
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	70%	レポート	30%
担当者名		担当講義に関する実務経験							
太田 久子		臨床での看護実践、管理業務、看護教員と看護全般にわたる経験を有す							
到達目標		看護過程の意義を理解し、科学的思考のプロセスを用いて対象のニーズを満たし看護の質を保証するケア提供の技術を修得する。							
授業概要		看護過程の意義や歴史の変遷を学びつつ、問題解決過程としての看護過程を具体的に展開し、看護の思考過程を学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		「考え方」「向き合い方」を大事にしています。看護技術を提供する土台となる部分なので、積極的に学習していきましょう。							
回数	単元	授業内容						授業方法	
1	看護過程	看護過程を展開させる際に基盤になる考え方						講義	
2		問題解決過程としての看護過程 アセスメントとは						講義	
3		アセスメントの技術 全体像の把握						講義	
4		看護問題の構造・記述						講義	
5		看護問題の種類、優先順位の決定						講義	
6		看護計画 目標・達成期日の設定						講義	
7		看護計画 実施						講義	
8		看護計画 評価の目的、種類、評価の視点						講義	
9		事例演習：呼吸器疾患患者の看護						演習	
10									
11		事例演習：呼吸器疾患患者の看護						演習	
12									
13		事例演習：呼吸器疾患患者の看護						演習	
14									
15	単位認定試験・まとめ								
教科書		科学的看護論 第3版 薄井坦子著 日本看護協会出版 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I (基礎看護学②) 医学書院							
参考文献		看護学原論講義 薄井坦子著 現代社 ナースが視る人体 薄井坦子著 講談社							
備考									

領域	専門分野 I	科目	基礎看護学援助論Ⅶ		担当	宇野 由佳	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	後期	1単位	15時間	8回	講義 演習	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
宇野 由佳		救急外来、ICU、HCUにおける臨床看護実践経験を有す					
鈴木 久美子		急性期・慢性期病棟にて、臨床看護実践経験を有す					
到達目標		1 人間にとって呼吸のもつ意義及び呼吸状態のアセスメントについて修得する。 2 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法の意義と方法について理解する。 3 酸素吸入療法・胸腔ドレナージにおける援助方法を修得する。 4 救急対応の考え方を理解し、心肺蘇生法の技術を修得する。					
授業概要		呼吸・循環を整える援助や救急対応に関する基礎知識を理解し、医療機器やモデルを使用し、援助方法について演習を通し看護の実践力を高める。					
学習者への期待 (含む準備学習)		呼吸・循環を整える援助や救急対応に関する基礎知識と技術を習得して欲しい。					
回数	単元	授業内容				授業方法・担当	
1	1. 呼吸・循環を整える技術	治療・処置を受ける対象の看護（1）				講義・宇野 鈴木	
2		演習：酸素吸入、ポンベの取り扱い				演習・宇野 鈴木	
3		治療・処置を受ける対象の看護（2）				講義・宇野 鈴木	
4		演習：口腔・鼻腔吸引				演習・宇野 鈴木	
5	2. 救命救急処置技術	救命救急処置の基礎知識 トリアージ				講義・宇野	
6		演習：心肺蘇生法				演習・宇野	
7							
8	単位認定試験・まとめ					宇野 鈴木	
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③） 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論（基礎看護学④） 医学書院					
参考文献							
備考							

領域	専門分野 I		科目	基礎看護学援助論 IX		担当	武田 藍	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
武田 藍		内科、外科病棟・外来にて臨床看護実践経験を有す。特別養護老人ホームにて看護実践経験有						
守 花絵		内科・外科病棟、外来にて臨床看護実践経験を有す。デイケア、訪問看護ステーションにおいて看護実践経験を有す。						
到達目標		1 健康障害の「経過」からみた対象の特徴と看護が理解できる。 2 主要な症状のメカニズムを基盤に、アセスメントの視点や看護援助が理解できる。 3 創傷の観察により早期に異常を発見する方法を修得する。 4 ドレッシング材や包帯の種類や特徴を理解し、創傷処置の方法を修得できる。						
授業概要		臨床とは、医療を求める人に対して医療行為を行う場である。臨床看護総論は、臨床看護総論では対象（家族も含む）、健康状態の経過からみた特徴と看護、主要な症状を示す対象者への看護について学ぶ。創傷の観察及び処置法の実際について学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		健康障害をもつ対象を理解し、健康障害に応じた看護を提供できるよう、知識と技術を修得して欲しい。						
回数	単元		授業内容				授業方法・担当	
1	1. 健康状態の経過に基づく看護		健康の維持・増進を目指す看護				講義・武田	
2			急性期における看護（手術療法、集中治療を含む）				講義・武田	
3			慢性期における看護（リハビリテーション期も含む）				講義・武田	
4			終末期における看護、看取りの看護				講義・武田	
5	2. 主要症状別看護		呼吸器・循環器に関連する症状を示す対象者への看護				講義・武田 守	
6			栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護				講義・武田 守	
7			排泄に関連する症状を示す対象者への看護 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護				講義・武田 守	
8			認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 コーピングに関連する症状を示す対象者への看護				講義・武田 守	
9			安全・安楽や生体防御に関連する症状を示す対象者への看護				講義・武田 守	
10			演習：電法				講義・武田 守	
11	3. 治療処置を受ける対象者への看護		輸液療法を受ける対象者の看護 化学療法を受ける対象者の看護 放射線療法を受ける対象者の看護				講義・武田	
12			手術療法を受ける対象者の看護 集中治療を受ける対象者の看護 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者の看護				講義・武田	
13	4. 創傷管理技術		創傷管理の基礎知識 創傷管理				講義・高野	
14			創傷処置 包帯法				演習・高野	
15	単位認定試験・まとめ					武田		
教科書		系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 (基礎看護学④) 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II (基礎看護学③) 医学書院						
参考文献								
備考								

領域	専門分野 I		科目	基礎看護学実習 I		担当	武田 藍	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
1 年次	前期	1 単位	45時間	5日間	実習	実習目標達成度(実習評価項目)		100%
担当者名		担当講義に関する実務経験						
武田 藍		内科、外科病棟・外来にて臨床看護実践経験を有す。特別養護老人ホームにて看護実践経験有						
授業概要		看護の対象理解と対象が療養する場の理解を深め、対象とのコミュニケーションをとって、医療の場における看護の役割と機能を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		対象の思いや体験していることに関心を向けながらコミュニケーションを図りましょう。体調を整えて、積極的な姿勢で臨んでください。						
実習内容								
I 実習目的								
病気を持つ対象を理解すると共に、対象の療養環境を知り、対象の療養生活を支える看護の役割と機能について学ぶ。								
II 実習目標								
1 病気によって起こる対象のからだ、こころや生活の変化について理解することができる。								
2 看護活動を見学または一緒に参加し、看護がどのように実践されているか考えることができる。								
3 対象の持てる力を活かせるように、環境、食事、清潔、排泄等の生活過程を整える看護援助を実施することができる。								
4 対象の生活の場・治療の場である療養環境を理解し、看護が医療チームの人々と協力しながら行われていることを知ることができる。								
5 実習での体験を通して看護への関心を高め、看護に対する自己の課題に気づき、今後の成長の方向性を描くことができる。								
III 実習計画								
1 病院施設で実習を行う。実習グループを編成し、1 病棟に1 グループ配置する。								
2 患者1 名を受け持ち、対象の療養生活の見学やコミュニケーションを通して学ぶ。								
3 看護師の行う看護援助の見学や看護師と共に援助を行い、看護の役割を学ぶ。								
4 看護援助の見学後に、原則として学生の希望を優先して受け持ち患者を選定する。								
IV 実習時間 原則 9 : 00 ~ 15 : 00								
*詳細は実習要項を参照する								
曜日	午前			午後				
月	病院・病棟オリエンテーション 院内見学(指導者・教員・学生)			看護活動の見学 受持ち患者の選定と情報収集 受持ち患者への挨拶 カンファレンス(1 時間)				
火	行動計画の発表 受持ち患者とのコミュニケーション 看護活動の見学			看護活動の見学 カンファレンス(1 日の振り返り、目標達成確認) 記録の整理				
水	帰校日(9 : 00~16 : 00)			これまでの実習の振り返り 学習方法についての助言を受けながら今後の実習課題を明確化する				
木	行動計画の発表 受持ち患者への援助場面の見学及び受持ち患者との関わりから看護の対象を理解する。			受持ち患者への援助場面の見学及び援助 カンファレンス(1 日の振り返り、目標達成確認) 記録の整理				
金				カンファレンス(基礎看護学実習 I の学びの発表と基礎看護学実習 II に向けての課題について話し合う)				

領域	専門基礎 I		科目	基礎看護学実習 II		担当	武田 藍
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1 年次	後期	2 単位	90時間	2 週間 10日間	実習	事前学習、実習中の行動・態度、提出された記録類など実習にかかわる全てのプロセスを評価の対象とする。	
担当者名		担当講義に関する実務経験					
武田 藍		内科、外科病棟・外来にて臨床看護実践経験を有す。特別養護老人ホームにて看護実践経験有					
授業概要		学習した知識を実践の場において統合し、一人の対象との関わりを深め、看護過程を実践して看護の思考過程を学ぶ。特に対象に必要な基本的な日常生活援助方法を考え、看護師と共に指導を受けながら実践する。					
学習者への期待 (含む準備学習)		良い看護を行うためには、対象をしっかり理解することが大切です。三重の関心を持ってその人の持てる力に働きかける関わりをしましょう。分からないことは、文献で調べ、それでもわからないときは、質問していきましょう。					
実習内容							
<p>I 実習目的</p> <p>看護の対象に関心を寄せ、対象の理解を深めながら、一連の看護過程を実践して看護の思考過程を学ぶ。</p> <p>II 実習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対象のこれまでの生活を、からだ・こころ・社会関係の側面から対象を理解する。 2 対象の情報を看護の視点で収集し、全体像を大づかみに把握できる。 3 対象の情報を整理し、分析、解釈して、生活過程を整えるための看護の必要性を判断できる。 4 対象の状況に合わせて必要な援助を思考でき、優先順位の高い問題点のうち1つについて看護計画を立案できる。 5 対象の意向や希望にできるだけ添うように工夫しながら、日常生活の援助を実践できる。 6 実践したことが看護になっていたのか、経験したことを振り返り考えることで、自己の看護観を深めることができる。 <p>III 実習計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 病院施設で実習を行う。 2 グループを編成し、1 病棟 1 グループ配置する。 3 実習時間 原則 9 : 00 ~ 15 : 30 4 1 名の学生が、対象 1 名を受持ち、対象に必要な看護援助を計画・実施・評価する。 5 受持ち患者への看護援助は、実習指導者または教員の助言・指導のもと実践する。 6 カンファレンスの運営は、学生主体で行い、学生同士での学びを共有する。 <p>*詳細は実習要項を参照する</p>							
教科書		『科学的看護論』及び基礎看護学領域で使用したテキスト、配付プリントを活用					
参考文献		必要に応じて提示する					
備考		基礎看護学実習 I を履修していること					

領域	専門分野Ⅱ		科目	成人看護学概論		担当	内田 祝子
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法	
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	100%
担当者名		担当講義に関する実務経験					
内田 祝子		成人領域の看護実践、看護教員の経験を有す					
達成目標		<p>1 生涯発達の特徴と現代の生活状況から成人の特徴を捉え、ライフスタイルがもたらす成人の健康問題の特徴を理解する。</p> <p>2 成人の特性や能力、生活背景を踏まえ、成人の成長・発達・適応の可能性を引き出す看護援助について理解する。</p> <p>3 ストレス・危機理論、人間関係理論を活用し、成人の健康レベルに応じた看護援助方法について理解する。</p>					
授業内容		成人期にある人々を内的・外的環境に適応し生涯発達し続ける存在と捉え、その人生の歩み、社会生活の営みについて学ぶ。また、ライフスタイルと成人の健康生活の相互関連性など成人の看護アプローチの基本となるストレス・適応・危機理論、看護者と患者の相互関係について学び、看護に応用する能力を養う。					
学習者への期待		成人看護学は、範囲が広く、基本から積み重ねる学習が必要です。自分の学習動機・目標を明確にし、継続的、主体的に学ぶ姿勢を育てましょう。常に、「考えること」「自分の考えを言葉にすること」「他者の考えを聞くこと」が大切です。授業を通して実践しながら身に付けてください。					
回数	項目		授業内容			授業方法	
1	成人期にある人の理解 成人の健康と生活		ガイダンス 成人期にある人の理解			講義 演習	
2			生涯発達 成人期の特徴				
3			成人と生活				
4			成人期にある人の健康①				
5			成人期にある人の健康②				
6	成人への看護アプローチの 基本		看護アプローチの基本①			講義 演習	
7			看護アプローチの基本②				
8	成人の健康レベルに 対応した看護		ヘルスプロモーションと看護			講義 演習	
9			健康をおびやかす要因と看護				
10			健康生活の急激な破綻から回復を促す援助				
11			障害がある人の生活とリハビリテーション				
12			健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護				
13			人生の最期のときを支える看護				
14	成人の健康生活を促すための 看護技術		学習者である患者への看護技術				
15	単位認定試験・まとめ						
教科書		小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院					
参考文献		黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論（第2版）学研					

領域	専門分野Ⅱ		科目	老年看護学概論		担当	本木 泉		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義 演習	単位認定試験	70%	レポート	20%
						GW評価	10%		
担当者名		担当講義に関する実務経験							
本木 泉		臨床及び施設での老年看護実践・ケアマネジャー業務経験を有す							
到達目標		1 高齢者を取り巻く社会の動向が理解できる。 2 高齢者の身体的、心理的、社会的側面の変化が理解できる。 3 高齢社会における保健医療福祉制度や施策が理解できる。 4 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解することができる。							
授業概要		若いにもつ諸側面が、個々の高齢者の生命や生活にどのような問題をもたらしているかを 知り老年看護の在り方と高齢者の生活の質の確保に必要なさまざまな保健・医療・福祉制度 について紹介していく。							
学習者への期待 (含む準備学習)		若いに対するイメージを客観的に受け止め、「成熟」と「衰退」の2つの側面の意味を知り 高齢者の置かれている状況について理解し興味・関心を持ち、主体的に学んでほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	1章 「若い」を生きるということ		A 老年看護を学ぶ入り口 B 「若い」ということ ①加齢と老化 ②若いのイメージ				講義		
2			②加齢に伴う身体的側面の変化 ③加齢に伴う心理的・社会的側面の変化				講義		
3			C 若いを生きるということ ①高齢者の定義 ②発達と成熟				講義		
4	2章 「超高齢社会と社会保障」		A 超高齢社会の統計的輪郭 ①超高齢社会の現況 ②高齢者と家族 ②健康状態 ③死亡 ④暮らし				講義		
5			B 高齢社会における保健医療福祉の動向 ①保健医療福祉制度の変遷				講義		
6			②介護保険制度				講義 演習		
7			③高齢者医療のしくみ (2) 高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化				講義		
8			C 高齢者の権利擁護 (1) スティグマと差別 (2) 高齢者虐待				講義		
9			(3) 身体拘束				講義		
10			(4) 権利擁護のための制度 ①成年後見制度				講義		
11	高齢者体験		高齢者模擬体験 GW・発表				演習		
12	3章「老年看護の成立ち」		B 老年看護の役割 C 老年看護における理論・概念の活用				演習		
13	単位認定試験		単位認定試験 まとめ				試験 講義		
教科書		「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学」 医学書院 「生活機能からみた看護過程」 医学書院 「老年看護技術」 医学書院							
参考文献		国民衛生の動向							
備考									

領域	専門分野Ⅱ		科目	精神看護学概論		担当	阿部 利寿		
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
1年次	後期	1単位	30時間	15回	講義	単位認定試験	80%	授業態度	10%
						レポート	10%		
担当者名		担当講義に関する実務経験							
阿部 利寿		精神科救急を含む急性期から慢性期までの精神科全般の実務経験あり。							
到達目標		1 精神の健康を理解し、精神看護の目的・対象を理解する。 2 心の健康の概念、心の健康に影響を及ぼす因子を理解する。 3 精神障害の治療と歴史を踏まえ、精神保健医療の現状を理解する。 4 ストレスが心に与える影響を理解する。 5 リエゾン精神看護の活動を理解する。							
授業概要		心の働きと発達、心の健康問題を理解し、心の健康保持・増進と心を病む人を理解するための基礎知識と共に保健・医療・福祉の視点から社会での生きづらさを感じながら生活している心を病む人に対する看護の基礎を学ぶ。							
学習者への期待 (含む準備学習)		精神看護学ではこころの障害とそのケアについて学びます。心の病は誰にでも起こり得る身近な病気であることを、授業を通して理解してください。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	精神障害の考え方		「心のケア」と現代社会、精神看護学とその課題				講義		
2	精神の健康と障害		精神の健康とは（「ふつう」というものさし、精神の健康と障害の3つの側面、精神の健康の基準）、精神障害の体験と精神看護、精神障害のとらえ方、				講義		
3	社会の変化とメンタルヘルス		現代社会と精神(心)の健康				講義		
4	人間の心のはたらき（対人関係と人格の発達について）		人間の心の諸活動				講義		
5			人格と気質、ライフサイクルとアイデンティティ、フロイトの精神力動理論、心の成長発達と危機の防衛機制				講義		
6			対象関係論、ボウルビーの愛着理論、コフートの自己心理学、土井健郎の「甘え」理論				講義		
7			「ジョハリの窓」による自己分析のグループワーク				講義 GW		
8			自分について知ること				講義		
9	看護援助の展開		看護援助の基本構造、精神障害を持つ人のセルフケアの援助、患者による自家管理メジカル				講義		
10	社会の中の精神障害		精神障害と治療と歴史、日本における精神医学・精神医療の流れ				講義		
11			精神障害と文化、精神障害と社会学、精神科看護と法律（精神保健福祉法、障害者総合支援法）				講義		
12			精神科領域で必要な法律と制度（基本的人権、成年後見人制度、入院形態、精神障害者保健福祉手帳など）、法律・制度における課題、主要な精神保健福祉対策				講義		
13			倫理と人権、ノーマライゼーション 「宇都宮病院」の事例に基づき、人権擁護について考える。				グループワーク		
14	精神科以外での精神看護		がんと精神障害、看護カウンセリングの役割、リエゾン精神看護				講義		
15			単位認定試験と解説				客観テスト		
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（1） 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学（2） 精神看護の展開 医学書院							
参考文献		新体系看護学全書 精神看護学1 精神看護学概論 精神保健 メジカルフレンド社							
備考									

第4回生 学籍番号

氏名

葵会仙台看護専門学校

(TEL 022-380-1122)